

### 1. 研究テーマ

英語圏への短期研修の効果測定：オンラインプログラムを利用して

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、英語圏への短期留学が、帰国後の英語学習に及ぼす効果を明らかにすることである。短期留学のプログラムは、昨今、海外渡航のひとつの形として学生を中心に定着してきた。学生たちは、教室で行われる授業だけでなく、フィールドワークや、ホームステイ先の家族とのコミュニケーションを通して英語を学ぶ。英語を身につけ、身に着いた英語で何ができるのかを英語圏の国で体験し、英語能力の向上だけでなく、他文化に対する理解を深めることは、学生たちにとってかけがえの無い経験となっているといえるだろう。

しかしながら、短期プログラムの効果を持続させることは教員にとっても、学生にとっても、困難である。原因として考えられるのはやはり、学習機会や学習時間の減少である。短期間であっても、毎日英語を使わざるを得ない、という状況から一転、学生たちは、日本に帰国してみると、英語を使わなくても困ることのない日常に舞い戻る。そのとき、自ら学習手段を見つけ、継続的な学習ができる学生は、決して多くはない。学習時間の確保は語学能力の向上に欠かせないが、短期留学帰国後はどうしても学習時間が減少し、それに伴って英語学習に対する意欲も下がってしまうおそれがあるのだ。

そこで、本研究では、英語圏へ短期留学をした後の学生に焦点を当てた。具体的には、2018年の夏季休暇中にニュージーランドに1か月間の短期留学をしてきたばかりの学生たちが、帰国後の学習によって語学能力のさらなる向上をさせることができるのか、ということが筆者の最も大きな関心であった。また、語学能力だけでなく、英語を学ぶことに対する動機の変化や、留学を含む海外渡航への興味や関心についてもアンケート調査を行った。

### 3. 研究方法

本研究では、英語学習のツールとしてオンラインプログラムを利用し、4年制大学の文系学部  
の学生7名を調査対象とした。調査参加者のうち2名は、2018年8月から9月、ニュージーランド  
のクライストチャーチ工科大学で行われた短期語学研修から帰国した、学部1年生の学生であ  
る。5名は学内で公募し、調書の提出があった者の中が参加した。学部3年生が3名、2年生が2名、  
いずれも国際コミュニケーションを専攻とする学生であった。3年生の学生のうち1名はベトナム  
で1年間の長期留学を経験しており、他の2名は3週間以上の海外渡航経験がない学生であ  
った。2年生の学生2名は、2017年8月から9月にかけて、アメリカのモントレイ国際大学院大学(以  
下MIISとする)で3週間のホームステイと英語集中プログラムを受講した。なお、プログラム開  
始時は、受講者は10名いたが、そのうち3名が短期研修帰国生、7名が学内公募で調書を提出し

てくれた学生であった。プログラムの途中で、2名が「家庭の事情」、1名は「卒論等、勉学の事情」によって途中で参加を辞退した。辞退した学生以外は、1か月間のプログラムを修了した。

MIISが提供するプログラムは“American Culture and Conversation”というコース名がつけられ、英語を学びながら、アメリカの文化についても学習することが意図されていた。受講生7名はオンラインプログラム受講の前にTOEICの模擬試験、受講後にTOEIC IP試験を受験した。また、プログラム修了後のアンケートによって、自身の1か月間の英語学習やモチベーションについての振り返ってもらった。表1はAmerican Culture and Conversationのコース内容、表2は受講後のアンケートである。

表1 : American Culture and Conversationプログラム内容

Nov 12, 2018	Lesson Lesson 1A: Welcome to Monterey Lesson 1A.1: Dialogue Video and Quiz Lesson 1A.2: Introduce Yourself	Module Module 1: People and Places in Monterey
Nov 13, 2018 Nov 14, 2018	Lesson 1B: Zoom Discussion Lesson 1C: Introduction Lesson 1C.1: Dialogue Video and Quiz Lesson 1C.2: Language Video and Quiz Lesson 1C.3: Survey 1D: Homework discussion Forum	
Nov 15, 2018	Lesson 1D: Zoom Discussion	
Nov 26, 2018	Lesson 2A: Introduction Lesson 2A.1: Sports and Fitness Vocabulary Assignment Lesson 2A.2: Sports and Fitness Quiz Lesson 2A.3: Crossfit Dialogue Video and Quiz Lesson 2A.4: Crossfit Teaching Video and Quiz	Module 2: Sports and Fitness
Nov 27, 2018	Lesson 2B: Crossfit Zoom Discussion	
Nov 28, 2018	Lesson 2C: Introduction Lesson 2C.1: Sports and Fitness Listening Practice and Quiz Lesson 2C.2: Tennis Dialogue and Quiz	

Nov 29, 2018 Dec 3, 2018	Lesson 2C.3: Tennis Teaching Video and Quiz Lesson 2C.4: Tennis Playing Quiz Lesson 2C.5: Tennis Playing Quiz Lesson 2D.1: Homework Discussion Board Lesson 2D: Zoom Discussion Lesson 3A: Introduction Lesson 3A.1: Clothing Video and Vocabulary Assignment Lesson 3A.2: Shopping Dialogue Video and Quiz Lesson 3A.3: Shopping Language Video and Quiz Lesson 3A.4 Sports Quiz	Module 3: Shopping
Dec 4, 2018 Dec 5, 2018	Lesson 3B: Shopping Zoom Discussion Lesson 3C: Introduction Lesson 3C.1: Listening Practice Video and Quiz Lesson 3C.2: Shopping Dialogue Video Quiz Lesson 3C.3: Language Lesson Video and Quiz Lesson 3C.4: Language Lesson Quiz Lesson 3D.1: Homework Discussion Board	
Dec 6, 2018	Lesson 3D: Zoom Discussion	
Dec 10, 2018  Dec 11, 2018 Dec 12, 2018	Lesson 4A: Introduction Lesson 4A.1: Dialogue Video and Quiz Lesson 4A.2: Grammar Video and Quiz Lesson 4A.3: Grammar Quiz Lesson 4B: Zoom Discussion Lesson 4C: Introduction Lesson 4C.1: Dialogue Video and Quiz Lesson 4C.2: Sentences Quiz	Module 4: Travel and Sightseeing

Dec 13, 2018	Lesson 4C.3: Language Lesson Video and Quiz	
	Lesson 4C.4: Language Lesson Quiz	
	Lesson 4C.5: Language Lesson Quiz	
	Lesson 4D.1: Homework Discussion Board	
	Lesson 4D: Zoom Discussion	

表2：自己評価アンケート

Q1. 今回のプログラムを通して、下記の事項について、自分がどのくらい達成できたか、1-5までの数字を○で囲んでください。コメントがあれば記入してください。

質問	自己評価	ひとこと（あれば）
● 積極的に英語を学ぶ姿勢が身についた。	5 4 3 2 1	
● 宿題に積極的に取り組んだ。	5 4 3 2 1	
1-3. アメリカの言語や文化に触れることができた。	● 4 3 2 1	
1-4. 英語を用いて英語で自分のことについて話すことができた。	● 4 3 2 1	
1-5. 英語についてわからないと思うことを英語で質問できた。	5 4 3 2 1	
1-6. 授業外での英語学習の時間の必要性について考えることができた。	5 4 3 2 1	
1-7. 英語や他の外国語をもっと学びたいと思うようになった。	5 4 3 2 1	
1-8. 海外に住んでいる人とコミュニケーションをとることが楽しいと思った	5 4 3 2 1	
1-9. 留学に興味を持つようになった	5 4 3 2 1	
1-10. 留学ではない海外渡航に興味を持つようになった	5 4 3 2 1	

1-11. 海外に行かなくても英語を勉強することは可能だと思うようになった	5	4	3	2	1
1-12. 英語を使う機会を増やすことができた	5	4	3	2	1

評価：5（とてもそう思う） 4（そう思う） 3（どちらでもない） 2（あまりそう思わない） 1（そう思わない）

- 研究の成果

まず、オンラインプログラム受講前後で受験したTOEIC Listening & Readingテストの結果について報告する。表3は、試験の結果をまとめた表である。以後、受講前に受けた試験をT1、受講後に受けた試験をT2とする。また、TOEIC試験のリスニングセクションはL、リーディングセクションはRと略記することもある。なお、周知のとおり、TOEIC試験はLとRがそれぞれ445点満点、合計990点が最高得点となるテストである。

表3 試験結果

		平均	最大値	最小値	標準偏差
T1	L+R	515.7	815	245	182.9
	L	297.1	450	115	108.2
T2	R	218.5	365	90	103.7
	L+R	526.4	775	380	144.6
	L	330.7	430	250	60.0
	R	195.7	345	130	81.5

T1におけるLとRの合計得点の平均とT2の合計得点の平均を比べると、T2のほうが10.7点上回る結果となった。しかし、セクションごとで比較をすると、T1のLの平均値が297.1から330.7と30点以上の上昇を見せているのに対し、Rの平均は218.5から195.7と20点以上下がっていることがわかる。合計得点およびセクションごとの得点の最大値とはT2が低く、最小値はT2のほうが高い。標準偏差はT1よりもT2が比較的小さいという結果が出た。習熟度の高い学生よりも、比較的習熟度が低い学生の得点が上昇したことによって、合計得点の平均が上昇するという結果が出たことがわかる。

オンラインプログラムはスキット視聴や、録音音声をアップロードして行うウェブ上の会話フォーラム、ライブセッションによるネイティブスピーカー教員とのやりとりが主体となっている。一方で、学生たちがプログラムのために読む必要のあった英文は、オンライン上の確認テストの問題文やライブレッスン用のハンドアウトとして使用したスライド資料が主であった。

学習内容も、余暇の活動や、日常生活における購買活動をトピックにした会話文を通して英文法を学ぶ、というものであり、速読・速解が必要になるTOEICのリーディングの能力は上昇しづらかったのではないかと考えられる。むしろ、学生たちは、会話において正しい英語表現を使う練習を短期間であっても集中して行った。プログラムの講師は、学生たちの習熟度を考慮しながら、丁寧に時間をかけて指導を行ってくれたが、その指導方針は、必ずしも語学試験に必要な能力を伸ばすことにはつながらなかったといえる。また、英語の習熟度にばらつきのある学生たちが同じ教材を用いて同じ教員に短期間集中で学んだため、習熟度の低い学生にとってはちょうどよい難易度であったのかもしれないが、習熟度の高い学生、とくに語学試験の勉強を自ら行っていた学生にとっては、テストのスコア向上には直結しない学習体験であったのかもしれない。

次に、オンラインプログラム修了後に行った自己評価アンケートの結果について報告する。プログラムに参加した学生は、プログラム修了後、12の自己評価項目について、1から5の5段階評価（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：どちらでもない、4：そう思う、5：そう思う）のうちから当てはまるもの一つを選び、コメントがある場合は別途記入してもらった（以下、この自己評価アンケートをQ1と呼ぶ）。なお、アンケートにはプログラム実施大学の要望から、プログラムそれ自体についての質問事項も設けた（以下Q2とする）。本研究では、主にQ1を分析の対象とした。表4はQ1のそれぞれの項目に対し、各段階の自己評価をつけた者が何人いたのかをまとめたものである。

表4

		自己評価					平均
		5	4	3	2	1	
項目	1-1	4	2	1	0	0	4.4
	1-2	0	3	4	0	0	3.6
	1-3	3	4	0	0	0	4.4
	1-4	2	5	0	0	0	4.3
	1-5	2	4	1	0	0	4.1
	1-6	4	3	0	0	0	4.5
	1-7	7	0	0	0	0	5
	1-8	6	1	0	0	0	4.9
	1-9	6	0	1	0	0	4.7
	1-10	5	2	0	0	0	4.7
	1-11	2	4	0	1	0	4
	1-12	4	2	1	0	0	4.4

外国語の学習姿勢や学習意欲に関する評価項目1-1、1-2、1-6、1-7、1-12については、1ほとんどの項目で高い評価を示しているのとは対照的に、宿題等への取り組みに関する項目が低い評価になっていた。受講生たちは、英語学習に対する意欲はあるものの、大学の授業外で課される宿題にも取り組まなくてはならなかった。英語の学習はしたいが、学生生活のなかでいつもより多くの学習時間を確保することができない、自主的に取り組むことが難しいというジレンマが、1-2の自己評価を下げる形になったのかもしれない。ライブレッスンの間隔や、次のライブレッスンまで週末を挟む場合と挟まない場合とで、宿題の量を調整するなど、教員の側での調整が必要であったといえる。

プログラム期間中に困難を感じた学生が多かったにもかかわらず、1-3、1-4、1-5の語学能力や学習効果についての自己評価は高い。大学の授業とは別個で行われた、授業外の学習プログラムであり、単位付与等もないプログラムを1か月という短い期間であってもやり遂げるモチベーションを維持できたことから、修了した学生たちにはある種の達成感が得られたのであろう。プログラム序盤には英語の発言できなかったが、終盤には発言ができるようになったという声を、直接学生から聞くこともあった。

1-8、1-9、1-10、1-11については、留学への意欲の高まりが読み取れる結果を得ることができた。特に、1-8、1-9、1-10は、ほとんどの学生が5をつけている。また、1-11「海外に行かなくても英語を勉強することは可能だと思うようになった」の評価は、1-8、1-9、1-10と比べると、かなり低い。今回実施したオンラインプログラムは、日本に居ながら海外の講師とつながって学習できることが利点ではあるが、むしろ、海外渡航や留学に対する意欲を向上させるものであったようだ。

また、本研究では、英語圏へ短期研修を経験した学生とそうでない学生の比較も試みた。しかし、今回の調査では、語学試験のスコアや英語学習の意欲について、はっきりと異なる傾向が見られることはなかった。一方で、プログラム修了後の学生たちの自己評価は高いものが多く、また学習の効果を学生本人たちが自覚している。そのため、オンラインプログラムには、英語運用能力向上、そして英語学習に対するやる気や意欲の向上において一定の効果があるものといえるだろう。

## 5. 今後の展望

本調査で対象とした学生たちの場合、第1年次から第3年次と学生の学年に幅があり、英語圏ではないが10か月の海外留学を経験した学生や、1年前の英語圏への短期研修に参加した者など、英語や他の言語の学習経験にもかなり差があった。しかし、今回の調査では、学習経験や海外渡航の経験がもたらす影響は明らかになっていない。また、短期研修帰国直後の学生についても、短期研修参加の前後での語学スコアやモチベーションの変化等についての調査を行う

ことができなかつたため、オンラインプログラム前後の比較しか行うことができなかつた。つまり、彼らが短期研修を通して身に着けた語学能力を維持できているのかいないのか、今回の結果だけでは断定できない部分が多い。さらに、今回はプログラムを修了できた受講生は7名であった。今回の調査結果だけをもって、短期研修の効果について言い切れることは、非常に少ない。

そのため、今後の課題としては、1.英語や他の言語について、プログラムを受講するまでの学習経験を明らかにするための詳細な事前アンケートを行うこと、2. 短期研修の前後で語学能力をチェックするテストを行うこと、3.短期研修の前後での学習意欲に関するアンケート調査を行うこと、が考えられる。また、データをもっと増やすため同様の試みを継続し、検証を続けていく必要がある。

- 研究成果の発信

2019年2月28日に発行された、Ferris Research Papers第9号に、研究ノート「英語圏への短期研修の効果測定：オンラインプログラムを利用して」が掲載された。今後も同様の主題で研究を継続するとともに、所属研究機関での英語の講義においても本研究で受けた示唆を活用していきたい。